



# 元気通信

ブダペスト日本人学校

# 学校だより

平成28年10月14日号

## 【ドナウ祭に向けて】(ドナウ祭担当 原田・牛嶋・佐々木)

第12回ドナウ祭に向けて、全校児童生徒にスローガンのキーワードを公募しました。集まったキーワードの中から、実行委員長の柴田果凜さん、フラッグ班班長の寺岡愛実さん、プログラム班班長の宗田徒和さんの三人で会議を行い、今年のスローガンが決定しました。

## 『DO NOW 祭～一伍一什』

英語で「DO」は『する』、「NOW」は『今』という意味から、「今するべきことをしっかりとやって、祭を楽しもう」という意味が込められています。また、「一伍一什」とは、『最初から最後まで』を意味する四字熟語です。練習の中での準備や片付け、また自分達の出し物の練習など、今するべきことをしっかりとやり、本番を楽しむことができるように、練習を積み重ねていきたいと思えます。運動会が終わり早速ドナウ祭に向け、子どもたちは動き出しています。本番をお楽しみに！



## 【進路説明会】(進路指導担当 佐藤)

先月の進路希望調査をもとに、中学部では進路説明会を下記の通り開催いたします。中学部の保護者の皆様には、既にご案内しておりますが、小学部の保護者の方でもご希望があれば参加していただくことができます。その場合、資料を追加で準備いたしますので、10月25日(火)までに担任にお申し出ください。主な内容は、「ハンガリー国内での進学(アメリカンスクールのガイダンス)」と「日本国内での受験を踏まえて」となっております。

- 1 日時 10月28日(金) 14:30～15:40
- 2 場所 図書室

## 【児童会の紹介】(児童会担当 甘利)

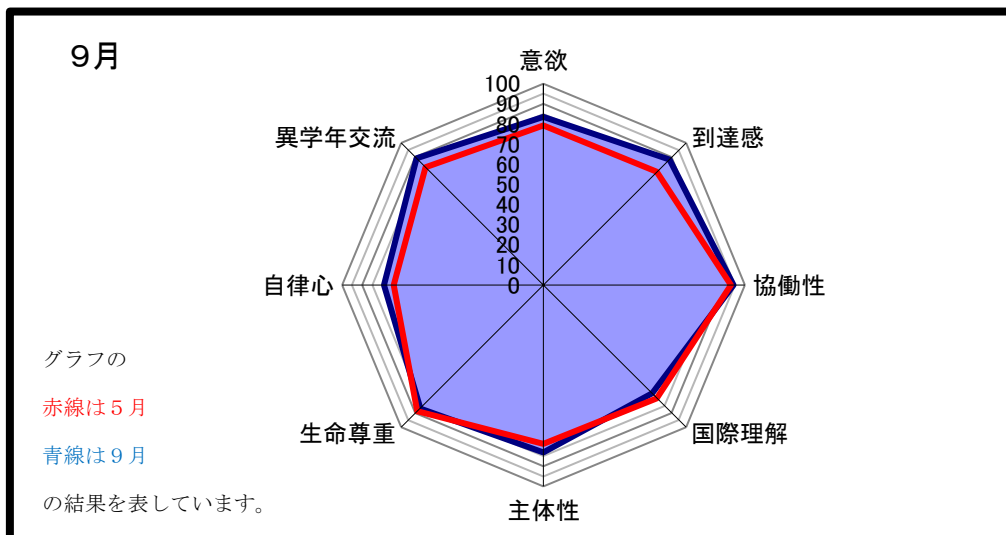
10月3日(月)の任命式において、後期の児童会委員の任命式が行われました。3年生以上の各学年から2名ずつ選出された8名が、小学部全体をまとめる中心的な役割を担います。

「この半年児童会長を務めますが、私には自信がありません。ですから、私は、学校全体でよりよい学校創りをしていきたいと思っています。また、副会長といっしょに生徒会を支えていきたいと思っています。よろしくをお願いします。」(会長…佐脇彩夏)

「僕は、副会長として、『めりはりのある小学部』を目指したいと思っています。めりはりというのは、勉強などをしっかりとするときと、楽しむときを区別することです。このめあてを達成して、みんなで達成感を感じられるようにします。」(副会長…児玉真輝)

- 児童会会長 佐脇 彩夏 (6年)
- 児童会副会長 児玉 真輝 (6年)
- 児童会委員 續木 遥仁 (5年) 砂川 颯杏 (5年)
- 村上 草太 (4年) 菊内 愛莉 (4年)
- 原田 健汰 (3年) 竹内 咲帆 (3年)

## 【第二回児童生徒アンケート調査】（教科領域研究主任 大久保）



### ○成果

#### ①「意欲」「到達感」「協働性」の向上

昨年度より、アクティブラーニングを重視した授業づくりを行っています。

具体的には、①多様な考えが表出される学習課題の設定 ②グループワークの活用 ③調べて表現する活動 ④迅速なフィードバック（小テスト・コメント） の4つに重点を置いて、日々の授業づくりに取り組んでいるところです。

結果として、全学年で高い協働性を見せています。今後もアクティブラーニングを継続していきたいと思えます。

#### ②「主体性」の向上

今年度より、運動会も実行委員制度を採用しました。また、行事に関連性をもたせるようにし、「①めあての報告→②学級ふりかえり→③学校全体でのふりかえり朝会→次の行事へ」というサイクルで運用しています。

結果として、自分たちで行事を創っているという実感が高まっていると考えられます。また、実行委員制度や各種リーダー制度を取り入れることで、自ら率先して行動しようとする姿も多く見られます。今後も実行委員制度等を継続していきます。

#### ③「異学年交流」の向上

本校では、縦割り班でのそうじを通年で実施し、B J S レクやB J S ランチ、小学部縦割り班昼食など異学年でふれあう機会が多くあります。結果として、異学年交流の数値が高くなっています。今後も縦割り活動を継続していきます。

### ▲課題と改善策

#### ①「国際理解」の低下

昨年度より、各学年、各学期に2回以上現地素材を扱った授業を実施するようにしました。しかしながら、5月の結果を比較すると、数値が低下しています。生活科・総合的な学習の時間以外の教科においても、国際理解の視点をもった授業づくりを行っていく必要性を感じています。

また、V校やVM校との交流機会を増やすことも重要と考えます。6月中旬以降、V校が夏休みに入り交流の機会が減ったことも国際理解の数値低下に関係していると考えられます。子どもたちが普段の生活の中であいさつや声かけなどが自然にできるような習慣づくりをするとともに、V校の教員とも連携し、交流会や交流授業等がかかわりを増やす試みを行っていきます。